

令和 7 年度 第 2 回総合計画審議会 会議記録

■開催概要

- 1 日時 令和 7 年 7 月 1 7 日（木）午後 3 時～午後 5 時
- 2 場所 第 1 委員会室
- 3 委員の出欠状況 1 9 名中 1 7 名（うち 1 名書面による意見提出）
- 4 事務局職員
鈴木副市長、小野企画経営部長、阿部企画課課長補佐、新沼副主幹、近藤主査

■会長あいさつ

▽お忙しい中参集いただき感謝する。

企業経営も地域経営も利他主義が大切である。総合計画は仕組の話であるため、ぜひ忌憚のない意見をいただきたい。

■議事事項概要及び結果

参考資料として、市民からの意見聴取の資料を配布した。

会長により、以下のとおり議事進行

意見交換

【政策 4】

▽政策 4 について、全てのページに朱字で「環境重視のインフラ整備（学院大跡地）」との記載があるが、これは何か。（委員）

→（企画経営部長）学院大跡地を開発する際に、地球環境に配慮した視点を含めて進めたいということ。本市の目指すゼロカーボンと併せて、地球環境の負担軽減を目指していくために象徴となる取組を、学院大跡地の開発から始めることを表している。

▽施策 4－3 良好なまちなみの保全について、以前は花いっぱい運動が盛んに行われていたが、近年は縮小してきたように見受けられる。（委員）

→（企画経営部長）前期計画の中では公園愛護の観点で花いっぱい運動を行っており、町内会が主体となって市からの助成金や委託を受けていたが、その担い手が減少している。町内会という枠組ではなく、大きなコミュニティの中で充実させたいと考えているため、町内会向けの支援もしつつ P T A や企業にも助成している。この活動は後期計画の中でも継続していきたい。

→（委員）市民に向けたアピールの方法を工夫してはいかがか。広報誌だけでは活動が浸透していないのではないか。

▽先ほどの公園愛護に関連して、月 2 回、公園の草取りを行っているが、除草剤をまけず苦勞している。特に公園の植え込みに入っているスギナや、道路脇のクズの除草が難しい。（委員）

→（委員）除草シートを敷いてはいかがか。

→（委員）突き破ったり、隙間から生えてきたりする場合が多い。

→（会長）ヨーロッパの観光地では、道端の花に限らず、窓際のフラワーポットにも規制をしている。そういった条例を作るのも一つではないか。また、徳島県神山町では、花をきっかけにした地域づくりから移住・定住、人口の定着に成功している。本市でも利他的に活動している地域の方々をサポートできるような仕組を整えてはいかがか。

→（委員）町内会の役員等で草刈りをしている状況だが、やはり大人数で行うと楽である。

→（企画経営部長）環境に配慮できる人材が多くいるとよい。ごみ拾いに関しては市長が率先して取り組んでおり、本市職員も環境づくりに努めている。

- （会長）拾ったごみを買い取るポイント制を導入している自治体もある。環境に配慮すればよい思いをできるような仕組づくりを進めてはいかがか。
- （委員）交通安全母の会の方々が、児童館へフラワーポットを持ってきてくださる。そういった活動から、環境活動などへ繋げることができるとよい。
- ▽公園に設置された遊具の老朽化に関して、ブランコが撤去されたにも関わらず、新たな遊具の補充等の整備がない例が見受けられた。子どもの遊び場を減らさないためにも、安心安全な遊具の設置を計画的に進めていただきたい。（委員）
- （企画経営部長）遊具に関しては、毎年定期点検を行っているため、老朽化したものは修理・撤去している。その上で、近年外で遊ぶ子どもが少なくなっていることを考慮し、今までと同数の遊具を設置しているわけではない。
- （委員）安全な遊具も数多く出てきているので、ぜひ設置していただきたい。
- （会長）ドイツのプレーメンでは遊具が商店街の中にあり、目に届きやすいため安全である。場所を公園に限定せず、市立図書館の前などに遊具を開放してはいかがか。
- （委員）子どもたちは公園ごとの遊具を把握しており、色々な場所をまわって遊んでいるという実態がある。
- （企画経営部長）学区外の公園に行くのが学校から規制されていたり、親から禁止されていたりする子どももいる。子ども目線のまちづくりを行うためにも、様々な拠点を作っていくことが重要である。
- （会長）岡山県総社市では「赤ちゃんの駅」を設置し、母親の育児相談を受けながら子どもを遊ばせるという場所づくりを行っている。今後は空き地に公園を作るのではなく、多賀城駅等、子どもが集まる濃度や人口が集中するところを算出した場所に公園を配置してはいかがか。
- ▽施策４－２循環型社会の促進について、海外ではごみの焼却よりもリサイクルやコンポスト等の分別が進んでいる。いかに年間のごみを減らすかという観点で、市民全体で生ごみの堆肥化に取り組めるような助成はいかがか。東部衛生処理組合も老朽化が進んでおり、こういった施設を延命するためにも生ごみ処理に目を向けたい。（委員）
- （企画経営部長）生ごみ処理機に関しては申請が減ったタイミングで助成を廃止したが、そういったご意見があることは政策所管分野に申し伝えたい。
- （委員）生ごみに関連して、カラスに困っている。通常の間で対策していたものを固定式の金網に変えたところほとんど来なくなったが、一部では未だ被害に遭っている。
- （委員）先ほどの意見やワークショップで出た意見を掛け合わせて、コンポストで作った堆肥に花いっぱい運動を関連させ、地域で循環させるようなイメージはいかがか。
- （企画経営部長）地域で作った仕組を、それぞれの家庭で生かしていけるかが重要になる。市民全体で理解しながら取り組むことが大切だと考える。
- （委員）子どもを対象にごみ焼却所の見学会を行うのはいかがか。見学を通してごみ処理を学ぶよい機会になる。
- （企画経営部長）市内小学校等で行っていたと記憶しているが、再度提案する。
- （委員）以前、本市では５月頃に中央公園で花と緑のふれあいまつりを行っていたと記憶している。そういったイベントで事業者と一緒に環境の配慮について後押しできれば、市民に対する意識の啓発に繋がるのではないか。

【政策５】

- ▽施策５－２商工業の振興について、企業の土地の中に遊休地がある状況だと把握している。産業

のインフラは進んでいるのに土地がうまく活用されていないことを、対外的にアピールしてはどうか。例として、空き地に医療やビックデータの管理を行うコンテナ型の施設を設置する等、社会に貢献する何かに特化するのがよいと考える。（委員）

→（企画経営部長）行政活動の所有区分で見ると市内の土地は埋まっているため、企業の土地内の遊休地という視点はなかった。今後、企業と共に何かを行うことは発展の可能性があると考えられる。

▽市では毎月創業イベントを行っているが、市内で創業に踏み切るのは、女性や退職した自衛隊員が多い印象を受ける。創業補助金も年間１０件は申請が来ているため、もう少し強気で創業支援に取り組んではいかか。また、「多賀城駅から桜木地区に向かって商店街が広がっている」とあるが、近年は高橋地区の商店街が活気づいているので、そちらの地域に関する文言も入ってよいのではないか。（委員）

→（企画経営部長）高橋地区の商店街は話題の中心のため、記載を検討する。また、駅での乗降客数の多さに反して、市立図書館２階の半分が空いている状態である。まずは本市を拠点としての出店に興味を持ってもらうことが今後の課題である。

→（委員）駅でイベントを開催すると、かなりの集客がある。駅はバスやタクシー等の交通の問題もあるので、今後も工夫しながら内容を考案していただきたい。

→（会長）東北では社会課題解決型の企業が多い。本市でも社会課題の解決を柱としながら、ＮＰＯ法人と起業家とのネットワークを充実させるとよいのではないか。

▽さんみらい多賀城・復興団地の充足率についてはどのような状況か。また、企業誘致のアプローチはどのように行ったのか。（委員）

→（企画経営部長）復興団地は完全に埋まっており、震災復興の志に心を寄せた企業が入っている。各補助金や数年間の固定資産税０円等のインセンティブを付け、製造業等、復興の力になる企業を募った。

【政策６】

▽施策６－１地域運営の振興について、市内の学生から「多賀城という地域は好きだが、住んでいて満足感があり具体的に何を解決すればよいか分からず、課題の分かりやすい桂島地域で活動している」という意見を聞き、これが市民の成り手不足に繋がっていると考え。地域の課題をライトな形で市民に伝える機会があるとよいのではないか。仙台市ではまちづくりラボというイベントを市主体で行っており、参加者のチームに市職員も入って課題を伝えるという形式を採っている。本市でも導入してはいかか。（委員）

→（企画経営部長）導入しているが、市民にうまく伝わっていないのが現状である。仙台市ではワークショップだけではなく、実践まで行っているのか。

→（委員）行っている。その地域のフィールドに入って自分のやりたいことができるところが魅力で、本来は仙台市在住の人が対象だが、入れてもらったという経緯もある。本市にゆかりのある人であれば、外からも参加していただいた方がよいのではないか。

→（委員）桂島における具体的な地域の課題とは何か。

→（委員）震災や新型コロナウイルス感染症の影響を受けた海の家を復活させることが課題だったと把握している。桂島にゆかりのない人も含め、どこかの地域のために自分たちの力で何かをしたいという参加者が３０人程集まり、クラウドファンディング等を行っている。

▽若者も地域課題の解決に参加してほしいという意見をよく耳にするが、地域に興味がある若者が増えているにも関わらず、本市のイベントには参加しづらさがある。大学にはボランティアの募

- 集が多く来るが、本市のものを見かけたことがない。まちづくりワークショップに参加した際、多賀城という地域に興味があつて仙台市から来たという学生もいたので、場所の近い遠いではなく興味を持っている人に本市を発信できるよう、広く売り込んでもよいのではないか。（委員）
- （会長）学生の間では総合学習が一般化している。多賀城高等学校の災害科学科を中心において何か活動してもよいのではないか。
- （委員）仙台市には、青葉まつり学生部会という様々な地域や大学から学生が集まって活動する会がある。新たな角度からの意見を求めるためにも、本市でも学生の会を組織してもよいのではないか。
- ▽施策 6－2 多様な主体との連携・協働によるまちづくりの推進について、若者を受け入れるまちであることを 6－2－1 市民活動・ボランティア活動の支援等に 3 つ目の指標として追記し、具体的に活動してはいかかが。（委員）
- （会長）移住・定住に力を入れるのもよいが、将来地域に戻ってくる可能性のある若者へのアプローチをした方がよいと考える。
- ▽本市と東北学院大学との繋がりによく耳にするが、それ以外の大学との繋がりはあるのか。（委員）
- （企画経営部長）東北文化学園大学、東北生活文化大学、尚絅学院大学、宮城学院女子大学、東北大学の災害科学国際研究所とは関わりがある。包括的に連携しているのは東北学院大学となる。
- （委員）もっと様々な大学と緻密な関係を築いていけば、学生を呼び込みやすいのではないか。
- （委員）本市の魅力ではなく、ウィークポイントを積極的に発信してはいかかが。弱い部分を包み隠さず出し、それに対してどう協力してもらうかを考えてもらうとよいのではないか。
- ▽施策 6－3 地域資源を活用した市民文化の創造について、多賀城創建 1300 年記念事業を終わらせるのではなく、これを第一歩として次の 100 年に向かい、本市の歴史を活用していく方向にシフトしてはいかかが。また、今年度は大阪万博で開催した令和の万葉大茶会には、多賀城高等学校の茶道部が参加していた。こちらを仙台育英学園高等学校等、近隣の茶道部にも広げて学生の参加を促してはいかかが。（委員）
- ▽文化観光の推進について、国からの補助を目指すには観光拠点の設定や民間団体との連携が必要になってくるが、具体的なイメージの共有がされていないと考える。体験プロジェクトやプロダクトの案が具体化されていると、より挑みやすいのではないか。また、本市のイベントの対象者は市民であることが多く、交流人口や関係人口を育むようには見えづらい。客観的に地域の個性を見るには、より開かれたイベントの開催や情報発信が必要ではないか。（委員）
- （企画経営部長）具体的な観光拠点は作っている最中である。次の 100 年に向かって古代の歴史的史実を知ってもらうことに加え、後期計画では、史実の裏にある先人たちの想いを守るような取組が骨になると考える。シビックプライドを深めるためにターゲットを市民に絞っていたが、その市民が中心となって取組を広げていけるよう、次のフェーズに移りたい。
- ▽施策 6－1 地域運営の振興について、6－2－2 自治会・町内会活動の促進では親睦を大事にしつつも、防災や防犯、高齢者の見守りや支えあい等のウェイトが高まっている。こちらを追記していただきたい。（委員）
- （会長）山口県山口市では、買い物支援として住民カルテを事業者が作成し、対象の高齢者が 3 日間買い物に来なければ市が見回りに行くという取組を行っている。こういった横串を通すような活動を実施するとよいのではないか。
- （委員）市内でも高齢者向けにヤマザワの宅配サービスを行っており、電話をすると商品を配達

してくれる。こちらの情報を活用して、タイアップするのはいかがか。

▽施策 6－2 多様な主体との連携・協働によるまちづくりの推進について、共生社会の実現として障がい者やLGBT、外国籍等のマイノリティの方を特化して記載しているが、地域やこの協議体も含めて共生社会であるため、全体を通して共生を訴えていただきたい。また、間もなく町内会の夏祭りが開催され、例年、20代の学生や社会人も積極的に参加している状況にある。シビックプライドを育むためには祭りの力が不可欠であるため、市で新たに企画してはいかがか。（委員）

→（企画経営部長）共生社会についてはご教示のとおりである。祭りに関しては検討する。

▽欠席者から、地域資源を活用した販わいの創出のための事業について、地域資源の付加価値の創造を継続するべきだと思う。特に、学生を巻き込んだ新たな取り組みが増えるような環境づくりが進めば良いという意見があった。（事務局）

【政策 7】

▽施策 7－4 環境変化に対応した行財政経営の推進について、生成AIの活用は進んでいるか。（委員）

→（企画経営部長）ルール化こそしていないが、個人で使用している職員は増加している。他自治体の成功事例を参考にして進めたい。

→（委員）生成AIの活用が当たり前になっているので、効率化の意味を持って、どこかに文言を入れてもよいのではないかな。

▽行政は縦割りが多い。横串を通していただきたい。（委員）

▽縦割りの部署に横断的なセクションを置くだけではなく、方向性を出すセクションと実行のセクションとを置き、それぞれの成果を持って地方創生の取組を発信していただきたい。（委員）

▽若手職員の離職率が高いとよく耳にする。入庁した職員を大事に育てることは、市民や企業にも影響を与える。市長もお若いので、共に成長できるとよいのではないかな。（委員）

▽横断的というところに関連して、特に文化は地域文化と教育文化とで特色が異なるが、業務の担当が違うと言われる事例がある。本市の目指すところとして、職員個人の知識や能力を生かせることと愛着に繋がるのではないかな。（委員）

▽施策 7－2 組織・人事マネジメントの推進について、年休取得率や時間外勤務の抑制等に加え、男性の育児休暇取得率も働き方改革として追記してはいかがか。（委員）

→（企画経営部長）本市職員の男性の育児休暇取得率がほぼ 100%であることは、もう少し積極的にアピールしていきたい。

▽職員の異動で、よい取組が途切れてしまうことがある。市の中でチームとして活動できることも多くあるのではないかな。庁内の繋がりが目に見えてくるとよい。（委員）

▽横断的というところに関連して、新庁舎で関連業務を行っている課をワンフロアにしたことで、何か効果はあるか。（委員）

→（企画経営部長）新庁舎の3階フロアは企画経営部が多く、元から似たような業務を行っているため横断的ではある。しかし、福祉部門や教育部門との業務は未だ縦割り感が残っている。

▽多賀城創建 1300 年記念事業を終えて観光元年を迎えるにあたり、職員の力だけでは厳しい業務もあるのではないかな。専門の方を採用する等を検討してはいかがか。（委員）

→（企画経営部長）職員として採用できるかどうかは別として、専門の方と共に業務を行うことや、一時的な派遣は多くある。

▽近年は新卒だけではなく経験枠採用も増えていると耳にするが、実態はどうか。（委員）

→（企画経営部長）今年度は予定よりも採用人数が多かったが、例年は少なく、また早期退職も多くいる。本市でも今年度から経験枠採用を導入しているが、定員数全体で見ると厳しい状況である。

▽こういった協議体で、普段関わらない団体の方々の意見が聞けて大変よい経験になっている。市民個人向けのものだけではなく、団体向けのワークショップもあるとよいのではないか。（委員）

▽施策 7－3 健全な企業経営の推進について、全国的に水道管の老朽化による破裂等の問題により、設備の更新が大きな課題になっていると考える。そのことも記載してはいかがか。（委員）

▽1 階フロアの案内さんの挨拶が大変気持ちがよい。何かを聞いたときに管理者が確実に対応する会社や、トイレを綺麗にしている会社はしっかりしているところが多く、本市もそれに該当している。引き続きそういった快適な行政サービスを行っていただきたい。（委員）

▽同一の課題を全体でどう解決していくかというところが軸となる。関連部署の連携だけではなく、特に職員の人材育成が大事になってくると考える。計画を回していく中で、後継に道を作るということも意識していただきたい。（会長）

▽欠席者から、基本事業 7－2－3 「安全・安心に働ける環境の確保」に関して、労働施策総合推進法が改正され、民間では、令和 7 年からカスハラ対策の義務化が始まったため、安全衛生への対応を適切に行うのみならず、カスハラ対策も急務となる。セクハラ、パワハラ等を含め、「ハラスメント対策を含めた安全衛生への対応」としてはいかがか、という意見があった。（事務局）

■事務局からの連絡

▽令和 7 年度第 3 回開催は、令和 7 年 10 月 10 日か 15 日を予定。別途日程調整をさせていただきたい。

以上